



国見っ子

令和元年度 第10号

国見町立国見小学校だより
令和元年11月18日
発行者 校長 菅野敏彦

幼小中間で教えてあげる教えてもらう経験は

なんと意味のあることか



〜くにみっ子まつり (11月1日) 〜

11月1日(金)、くにみ幼稚園年長園児、本校全児童、県北中学校全生徒が国見小学校に集まって「くにみっ子まつり」を開催しました。「くにみっ子まつり」は平成26年から国見町幼小中一貫教育事業として実施しており、今年で6年目になります。

今回の「くにみっ子まつり」における幼小中の共働作業は、28の班に分かれてダンス「パプリカ」を練習したあと、保護者やご来賓の方々に発表するものでした。このため県北中の生徒たちは事前に中学校でダンス「パプリカ」を練習して当日に臨んでくれました。各班の練習場所で中学生は、自ら踊ってみせ、やらせてみながら、愛情を込めて教えてあげていました。幼い相手に教えてあげる経験は、中学生にとって自己有用感を高める機会になったと思います。

幼稚園児も小学生も教えてくれる中学生の言うことをよく聞いて、一生懸命に練習に取り組んでいました。曲に合わせてうまく踊れなくても励ましながら温かく教え続けてくれる中学生に、幼稚園児も小学生も、信頼を厚くしていきました。自分の住む町に信頼できる年上の人がいる、そうした意識は幼稚園児と小学生に安心感やあこがれを与えたと思います。

すべての班がダンスを完成させ、体育館に一同に会して見事な発表をすることができました。国見の子どもはみな家族、と感じさせる幼小中が一体となった素晴らしい時間でした。私(菅野)は運営する立場にありましたが、心が震えるほどの大きな感動を覚えました。とともに、幼小中間で教えてあげる、教えてもらう経験には大きな意味があると強く認識したのでした。

ゲームを許可する場合、親として配慮しなければならないこと

脳機能研究の第一人者である東北大学の川島隆太教授監修の本『2時間の学習効果が消える! やってはいけない脳の習慣』には、ゲームが与える悪影響として、記憶力・注意力の低下や睡眠の質の悪化があり、これに加えて、暴力的なゲームをする子どもは、攻撃的な感情や行動を示しやすいことが指摘されています。また、ゲームプレイ時間が長い子どもの脳は脳内の各組織の発達に遅れが見られることも指摘されています。

保護者の皆さんに、学校からのお願いです。お子さんにゲームを許可する場合、親として我が子のために次のことに十分に配慮してください。

- ゲームをしてよい時間を親子で決める。(小学生は平日なら30分以内が適当と考えます。)
- 暴力的な内容のゲームはさせない。(性的な内容を含むゲームも同じです。)